

# 商店街におけるイベント実践報告「歩い ciao! 着物で千ブラ」 ～大学生が案内する路地裏散策～

中川美穂（京都嵯峨芸術大学 4 回生） 伊藤陽祐（京都嵯峨芸術大学 4 回生）  
桑田政美（京都嵯峨芸術大学）

キーワード：商店街、まち歩き、西陣千本、着物

## 1. 目的

商店街では、知名度アップ、イメージアップ、販売促進、地域とのコミュニケーション強化、商店街自体の結束を高めるなどの目的で多くのイベントが開催されている。そこに学生が入り込み、ヒアリングや現地調査などを踏まえて商店街の抱える課題を見つけ出し、その課題を解決する手段としてイベントを提案し実施する。そのプロセスを通じてイベントの持つそれぞれの特性、役割の認識とその構造、企画構築から開催運営までの実務の流れとその技能を学ぶ。また主催者や関係者などとの相互の関連を理解するとともに参加者へのサービス・マネジメントについても学ぶ。実践によって社会人基礎力の養成とプロデュース能力の習得を目指すことを目標としている。

## 2. 西陣千本商店街の歴史

西陣千本商店街は、京都市上京区の千本通り沿いの今出川から上長者町までの約 600m の商店街である。昭和 40 年代の最盛期には 170～180 軒の店が並び、「東の河原町、西の千本」と呼ばれた西陣の一大歓楽街であった。昔から若狭街道や嵯峨道の終点でもあった千本通りは、天神詣の始・終点でもあり、遠方からの来訪者で賑わっていた。明治以前からも商店は数多くあり、露店も出、芝居小屋も何軒かあった（喜多吉男）。上立売、中立売などの地名が残るように、明治の初め頃からこの地域には立ち売りの市が出ていた。

また、この地は我が国の映画産業創成の原点、「日本映画発祥の地」と言われている。これは明治 41 年に千本一条にあった千本座の座主牧野省三（「日本映画の父」と呼ばれる）が、活動写真＝モーションピクチャーの製作に乗り出した地であるからである。翌 42 年から尾上松之助を主演に撮った映画が爆発的な人気を得た。大正元年には千本通りに市電が通るのをきっかけに道路が拡張、商店も改築され「西陣京極」という停留所もできた。大正から昭和の初めにかけて浪花節を聴かせる小屋や映画館が 8 館あり、飲食店も立ち並び、休日を楽しむスポットとして賑わっていた。当時は娯楽が限られており、西陣の織手職人や若者たちは月 2 回（1 日と 15 日）の休みにその界限に集まり、ぶらりぶらりと幾度となく上り下りを繰り返して歩く「千ブラ」を楽しんでいたという。心齋橋筋をぶらぶらするのを「心ブラ」、銀座をぶらぶらするのを「銀ブラ」と称するのと同様にお洒落な行為であったわけである。戦後も映画館街として栄え、最盛期には各映画会社の封切り館はすべてあったという。西陣織とともに発展してきた商店街であるが、現在は織物業の厳しい状況の影響を受けて店舗数が減り、約 70 店舗となっている。

### 3. 企画概要

催事名称：歩い ciao! 着物で千ブラ～大学生が案内する路地裏散策

※歩い ciao! は「時代を懐かしむと同時に楽しんじゃおう!」という意味を込めた造語である。

開催日時：2010年1月17日(日)、24日(日)

場所：西陣千本商店街及び周辺地域(今出川通より更に北の五辻、寺之内通界限含む)

所要時間：約2時間

募集人員：各回20名

参加費：無料(着物貸出あり・有料)

主催：西陣千本商店街振興組合

企画運営：京都嵯峨芸術大学観光デザイン学科

#### ■路地裏散策の見どころ

- ・映画「五番町夕霧楼」の舞台となった遊郭跡など
- ・西陣京極の散策(西陣の歴史紹介)
- ・千本座の紹介(映画「オリオン座からの招待状」の舞台となった場所)
- ・千本通り周辺の由緒ある社寺仏閣や名所案内(西陣聖天、猫寺など)
- ・石畳の風情ある大黒町や若者のトレンドスポット(三上路地)の散策
- ・西陣と深い縁のある「たんきり飴」の試食など



#### ■制作物

- ・イベント告知ポスター(A3)
- ・まち歩きマップ(A4) ※折り畳み式で着物用の小さなバッグにも入る

#### ■マスコミの取材について

プレスリリースを作成、各マスコミに配布し、大学の広報室と連携し学生が対応した。ラジオはKBS(1/12)から取材を受ける。新聞は京都(1/14朝刊掲載)、1回目の1月17日には朝日、毎日、読売、産経新聞が取材で同行、翌日の朝刊に写真入りで紹介された。また、大学が提供する三条ラジオカフェ(ミニFM)の番組「キンコンカンコウ放送局」2009年10月放送分においてメンバーが台本を書き、まち歩きの魅力を語りイベントの告知を行った。

### 4. 評価・反省・今後の課題

商店街にとっては新しい「まち歩きルート」の開発ができ、店と客との話題提供にもなった。学生は企画、運営、広報などの手法を実際に行う中で学んでいった。もちろんデザインスキルの習得も重要な要素なので疎かにはできない。その意味では制作については若干の反省点が残ったが、それを上回る成果があがった。このイベント制作を通してチームワークの大事さ、マスコミの力の大きさ、コミュニケーションの大切さ、報告・連絡・相談の重要性など多くのことを学んだ。プロデュースワークの難しさと喜びを知ったことも大きな収穫であった。

#### 《参考文献》

「せんぼん物語」西陣千本商店街振興組合、1990